

平成 30 年度千曲市総合教育会議議事録（要約）

1. 日 時

平成 30 年 6 月 27 日（水） 午前 11 時から正午

2. 場 所

千曲市役所戸倉庁舎 4 階 会議室 1

3. 会議日程

- (1) 開会
- (2) 市長あいさつ
- (3) 会議事項
- (4) 閉会

4. 議 題

- (1) 教職員の勤務状況について
- (2) その他

5. 出席者

市長	岡田 昭雄
教育長	赤地 憲一
教育長職務代理者	若林 由美子
教育委員	武井 音兵衛
教育委員	坂本 孝夫
教育委員	中村 洋一
教育委員	宮入 文雄

企画政策部長	竹内 司
教育部長	上條 優
教育指導幹	青木 幸雄
総合政策課長	齊藤 清行
教育総務課長	滝沢 裕一
総合政策課	宮原 正浩
教育総務課	滝沢 資之
総合政策課	小笠原 隆

6. 議事

1. 開会（進行：竹内企画政策部長）

2. 市長あいさつ

（岡田市長）

今年度第1回目の総合教育会議を開催するにあたり、あいさつ申し上げます。

大阪北部地震により塀が倒れて子どもが犠牲になったということで、市ではいち早く学校を点検したところ、市内の小中学校にはブロック塀はなく、保育園ではブロック塀が3箇所か4箇所あった。基本的には鉄筋が入っていないものは解体したい。また、学校内で危険な箇所となりうる二宮金次郎像や壁に掛かっている重い絵画等について、点検するよう教育委員会にお願いし実施している。また、昨日の部長会議において、市内公共施設全てを点検するよう指示した。

本日は、議題にある「教職員の勤務状況について」、働き方改革の中でどうしていけばよいのか議論したいと考えている。特に、最近県内の市町村の中で、学校の夜間休日に留守番電話の対応をしている所があるが、我が市の教育現場でどのように対応していけばいいのか、市行政・教育委員会の中で学校現場がやりやすい環境を作っていくため、皆様方のご意見をお聞きしながら行政としてやるべきことをやっていきたいと考えている。

3. 会議事項

（1）教職員の勤務状況について

○青木教育指導幹より説明

（岡田市長）

先生方の1か月あたり平均の時間外勤務時間が40時間から50時間となっている。その中で持ち帰りの仕事の平均時間も多く、家に帰ってから食事と寝る時間以外は仕事の時間のように思える。

大町市は学校を閉めて留守番電話対応としているが、後から留守番電話も聞かなくはいけないだろう。

（武井教育委員）

留守番電話が入って、信号があれば確認できるのではないか。

（岡田市長）

ある私立小学校では、全てメール配信として、学校の開始・終了時間を決めているところもあり、時間外の対応の問題もある。

（宮入教育委員）

持ち帰り仕事は教材研究であり、教材研究には終わりが無い。特に小学校の先生は、全ての教科を教えなくてはならない。私は、今日は算数に力を入れる、明日は国語を重点的にやると

いったようにしていた。結局、終わりが無いので持ち帰り仕事をするようになる。

(岡田市長)

やっぱり学校の先生は大変だ。どこで休息をするのだろうかと思う。

(武井教育委員)

そもそも先生の勤務時間は何時から何時までなのか。授業の合間の休憩時間は、休憩時間に含まれるのか。

(青木教育指導幹)

子どもたちは休憩時間だが、先生は休憩時間とならない。お昼は休憩時間となるが、義務教育では給食指導がある。1時間休憩あっても、その中で10分、15分の給食指導がある。自分が食べている時だけ休憩となっている。その後の休憩時間は、持ち帰り仕事を少しでも減らそうとして頑張っている。

(武井教育委員)

先日、埴生小学校へ行った時、給食指導が25分ほどあったが、子供たちが配膳するのを見るということか。中学校にも給食指導はあるのか。

(青木教育指導幹)

給食指導では、配膳・片づけ・食べ方・残さないようにといったことを指導する。給食が整然と行われることは、授業が成立する上で間接的なとても大事な条件である。放っておくと中学校でも学級が乱れてくる。

(岡田市長)

中学校の先生の6割が過労死ラインというデータもある。ようやく働き方改革という言葉が出てきたが、どうするのが一番いいのか。大学の先生はどうか。

(中村教育委員)

小・中学校の先生は真面目過ぎると思われる。今日はここまでと割り切って出来ればよいが、先生方みんなそうになってしまうと殺伐としてしまうので、今は先生方の熱心さにかかっている。

この間小学校へ行って見て思ったことは、教材等の共有化を支援していくことが一番良いのではと思う。

先生方がすべての授業で個別に教材を用意するのは大変であるので、教材のデータベース化があれば良いのではと思う。先生の数を増やすことは難しいので、市単独で事務員を配置し、研究会等を行う中で教材を揃えていく。飯山市で行っている。書類等の事務作業は、教頭先生が主に行っていると思われるので、一番支援できるのは教材研究の時間がかかっている部分を共有化することと思う。また、仕事を持ち帰ると、情報漏洩等の問題がある。大学は教材研究にあまり力を注がないので負担は少ない。

家庭訪問も準備や移動等で時間がとられ負担は大きい。

今、小学校では安全教育・給食教育・道徳教育・英語教育・性教育といった〇〇教育がとても多い。先生方の負担を軽減していかないと、一方的に仕事が増えていく。一番大変なのは授業の準備なので、その支援をしていく必要がある。

(坂本教育委員)

組織論から勤務時間を考えると、労務管理やマネジメントの問題である。学校という特別な事情として、一つは、一般の企業・市等はピラミッド型の組織であるが、学校は鍋ぶた型組織になっている。鍋のつまみに校長・教頭先生がいて、他の先生は横並びになっている。もう一点は、50年前に制定された「教職員給与特別措置法（公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法）」で、4%の調整額が先生に支給されているが、時間にすると月間8時間位にしかない。こうした特殊事情を踏まえ、個々の職員にどのようにアドバイスしたらよいのか、業務のアウトソーシング・A I等のソリューションを活用してこの問題を考えないと、議論が一向に進まないと思われる。

鍋ぶた型組織の学校では、各先生は個別に授業を行っていて、新しい先生が入って来るとまた最初から教材を作っていくという非効率な点がある。

(岡田市長)

市長会でも問題提起されたが、各市で児童・成績管理等のシステムがバラバラになっていて、先生が他市へ異動するとシステムが違ってくる。行政側として何とか統一できないかという議論があった。

教育は人間を相手にするものであるので、どこまでカスタマイズ出来るかということ。学校の特徴もあるので、統一していくのが難しいところもある。

(坂本教育委員)

長時間労働是正のためのソリューションを作っている会社もあるのではないか。例えば日立ソリューションは、企業の長時間労働是正のためのパッケージを作っている。鍋ぶた型の組織はどうしていけばよいのか。

(岡田市長)

ピラミッド型の組織は、画一的な人間しか育てられないかもしれないし、鍋ぶた型組織は、ある意味特徴的な子どもを育てられるかもしれない。

(宮入教育委員)

教材研究も同様で、学級によって子供も違い、教える先生も違っている。先生は、自分の学級の子どもにはこう教える、また違う先生は私の学級はこう教えるというようにバラバラでよいと思う。ロボット的な人間を作るのではなく、一人ひとりのための教育をしようとする中で、弊害も出ている現状にある。

(岡田市長)

教育の世界は変わってきている。昔はひたすら働いて稼げばよかったが、今は創造性・抽象的に賢いものがないと世の中に勝ち残っていけない。画一的な人間は伸びない。人を育てることは難しい。今は先生の熱意とやる気、子どもを観察する中で、子どもの能力を引き出してもらっている。これはAIでは出来ないかもしれない。この状況の中で、先生が過労でダメにならないように支援しなければならない。先ほど中村委員と坂本委員が述べられたように、教材を共有する等、行政側で出来ることをしていく。

行政側も各市の状況があるので難しいところはあるが、同じ義務教育の中であり、先生方が一番やりやすい方法、子どもたちにとっても一番いい方法を我々が考えることが必要である。学校現場の中で、こうして欲しいという意見があれば出してほしいが、なかなか聞こえてこない。

(中村教育委員)

戦後、指導要領がとても薄くなってしまい、要点しか書かれていない。教育で先行している国は指導要領が厚く、現場の先生は指導要領を読めば成果が上がるようになっている。

現在、教材・教育目標のデータベースが管理されていない。何をどのようにしていけばよいということが確立されていない。

教務管理システムは各市にあるが、市ごとに違っているので先生はあまり使わない状況にある。勤務割り振りのシステムがあっても、手続きが面倒なため年休をとってしまう。働き方改革を求めれば求めるほど先生方には負担となることがある。

先生が一番重要だと思っていることは教材研究であり、子どもたちと勉強したいということ。そのための支援をしていくことが大事。教材バンクがあればよいと思う。

(若林教育長職務代理者)

現状では、学年会や教科会を行っている中で、ある程度統一した授業を行っていると思われるがいかがか。

(青木教育指導幹)

小学校では、学年の中で共通して明日はこのプリントを使うとか、中学校では教科会の中で決めている。ただ、一人ひとり子どもが違うので、いろいろな方法を考えながら授業を行っている。

(若林教育長職務代理者)

今、親が家庭で教えるべきことを先生が背負っている状況にある。スマートフォンも親がただ与えて、学校で教えてくれという親もいる。先生たちも万能でなければやっていられないという状況にある。

(坂本教育委員)

教職員給与特別措置法の改正について、国の動きはあるのか。

自分が子供の頃の先生は、長い休みになると暇そうな感じに思えた。子どもの頃は、忙しく真面目で一生懸命働いている先生より、ちょっと不真面目だけどいろいろな趣味があって生き生きしている先生の方が好きだった。

(青木教育指導幹)

改正の動きはある。平成 14 年より学校 5 日制になったが、先生としては 6 日制の時の方がゆとりはあった。例えば、6 日制では算数の科目が毎日あって、教えなくてはいけない分を毎日教えることが出来て、子どもも家に帰って宿題をすることも少なかった。

(坂本教育委員)

自分が子どもの時、先生に期待していたのは、勉強を教えてもらうことではなく、先生の面白さや人間性の豊かさだった。

(赤地教育長)

平成 13 年か 14 年頃から、公務員に対するバッシングが強くなり、先生は夏休みも冬休みも学校に勤務することとなった。

(中村教育委員)

先生は、夏休み中は授業もないし休めるが、休むとその日やったことを研修内容として提出するように締め付けがあったため学校に出勤した。その間、次の授業の準備をすればいいと思うかもしれないが、授業の一週間・10 日前に次の授業の準備となることから、そのようにはいかない。

(岡田市長)

行政も教育委員会もこの問題に対し、どのようにしたら一番よいのか方法を見つけないが、中々特効薬はない。委員から意見のあった、教材の共有化ということは良いのではないか。教材の基本形があれば、先生の負担も減るのではないか。

(坂本教育委員)

A I を使った長時間労働是正のためのソリューションはおもしろいのではないか。

(岡田市長)

今までの話を聞くと、教育の現場では労務管理という認識が全くない。全体的なマネジメントがない。

(坂本教育委員)

鍋ぶた型組織の弊害で、マネジメントが出来ない。

(青木教育指導幹)

マネジメントに関して朝の勤務時間は、市役所は 8 時 30 分の 5 分前に来れば勤務が始められるが、学校の先生は子どもが来るのを迎えたいという思いがある。子どもも誰もいない教室より、先生がいて笑顔で迎えてくれる方が嬉しい。だから労務管理ということは難しい面がある。私の経験からだ、朝先生が子どもを迎えてくれる学級の方が先生と子どもの関係は良好。

(岡田市長)

小中学校もそうだが、保育園も朝は保育士が子どもを受け取らないといけなく、休み時間もない。

19 市でも、学校の現場の先生の働き方について、議論が本格的になってくると思われる。教材の共有化・マネジメント・労務管理について、行政・教育委員会が共通認識を持ってやらないと難しいと感じる。

本日は時間もないので、教育現場の実態を把握し、課題を教育委員会で整理しながら、さまざまな機会において議論がなされると思うので準備していきたい。

(坂本教育委員)

今すぐできることとして、アウトソーシングは可能ではないか。

(岡田市長)

特に、体育・スポーツの分野の指導者に、ボランティアとして頼めるところはあるが、事故があった場合等の対応が必要となる。外からの支援は可能だが、顧問の先生がその場にいる必要があるかどうかの問題となる。

(青木教育指導幹)

現場の先生の声でありがたいと言われるのは、千曲市は小学校に支援員を 41 名配置していることや、義務教育の児童生徒数に対し配置する講師については、国や県の厳しい定数基準の中、千曲市は理科専科 3 名、教育課題 4 名の計 7 名の講師を配置していること。また、中間教室に適応指導員を 5 名配置していることがある。

今年、県教委では、大規模校は忙しいだろうということから、市内では埴生小・屋代小に 1 名ずつスクールサポートスタッフを配置した。スクールサポートスタッフは学校長の裁量で仕事を割り振られる。ただ、市教委の認識としては、小規模校の先生の方が仕事が忙しい。例えば、小規模校の 6 年生の先生は、一人で会計、修学旅行・組体操の立案・指導、卒業式の練習等を行っている。小規模校にスクールサポートスタッフを配置してほしい。千曲市は人的配置に手厚いが、現場の職員は人的な支援を望んでいると思われる。

(岡田市長)

学校の事務職員には、県職と市職がいると思うが何をしているのか。事務職員を増やせば、会計等の事務処理は事務職員に任せられるのか。

(青木教育指導幹)

市の事務職員は、児童生徒数の多い埴生小と戸上中に配置指定している。教職員の会計事務は、学年会計・旅行積み立て・給食費等多くある。現在、給食費については、徴収方法等を検討している。

(赤地教育長)

生徒数のピークは昭和 59 年、これを 100 とすれば、現在は 48 となる。現在の職員数は 99 で、昭和 59 年と大きく変わりはない。千曲市は職員の配置数に恵まれていると思われる。

(中村教育委員)

教育の難しい点は、アウトソーシング出来ない部分が多々あるということ。市の教育に関わっている非常勤の先生方の派遣の仕組みを作って、活用出来ればよいのではないか。市教委で持っている人材の動きを良くしていただければよいのでは。

教材の研究も、小規模校の先生の方が大変。小規模校は、担任が学年に一人で、副担任は 3 学年に一人という状況。

千曲市では、非常勤の支援員は同じ場所に連続して 5 年しか勤められない。非常勤職員が 5 年以上連続して同じ場所にならないよう市内で回していったらどうか。

(青木教育指導幹)

市の規約で非常勤職員 5 年としているが、募集しても応募がなければ延長して勤めていただくことは可能である。

(岡田市長)

市では非常勤職員の 5 年ということを厳密にしているわけではない。これは主に一般行政の話なので、専門性の必要な教育分野は違ってもいいと思う。

難しい問題ではあるが、先生の時間外平均勤務時間 50 時間、持ち帰り仕事平均 5 時間という調査結果を見ると、教育の質が落ちていってしまうという懸念がある。

本日は皆様方から様々な意見をいただいたので、参考にしながら今後細部を調査し、市として何が出来るのか検討していきたいと考える。

4. 閉会

議事録署名人

市長

教育長
